

梁川高等学校の3学期はまだ始まらない。1月15日（水）からが3学期である。冬季休業は、26日間に及んだ。3学期に学校にくるのは、3年生が16日間、1・2年生は40日間である。1・2学期に比べると短い。だが、短い故に取り組みやすいこともある。

「一年の計は元旦にあり」ということで、多くの人が「今年は～」などと目標のようなものを考えたことだろう。梁川高校の生徒も一人一人心に誓ったことがあるかもしれない。年が明け新年を迎えると、大抵の人は「一年」というスパンで目標や誓いを考えるのではなかろうか。それはいいのだが、一年は長い。それに比べて生徒にとっての3学期は短い。そこで、1年という長いスパンで取り組むことをまずは3学期という短いスパンでやってみてはどうだろうか。そして、もしうまくいかなかったら目標や誓いを修正してもいいのではなかろうか。4月からは気持ち新たに修正した目標や誓いを胸に努力していくのである。そうしないと、できなかった、達成できなかったとなってしまうことも出てくる。ただし、何が何でも途中で変更はできない目標や誓いであれば話は別である。

また、1年の目標や誓いを達成するために、第1段階としてまずやるべきことを3学期に進めていくというやり方もある。受験勉強がイメージしやすいかもしれない。いずれにせよ、3学期という短い期間にやるべきことを明らかにすることが重要である。

就職を控える3年生は、どんなことに取り組むのだろうか。4月からは社会人である。車の免許を取ることも大切だが、他に一つでもいいからやっておきたい。例えば、社会に出るにあたり、漢字が心配な人は、漢検、日本漢字能力検定の第3回検定を受検するという方法もある。検定日は2月16日（日）である。個人で申し込むことができる。私も昔、40代半ばで誰に言われるのでもなく自分で申し込んで漢検を受けたことがある。合格すればりっぱな資格となる。たとえ合格しなかったとしても勉強したことは無駄にはならない。自分の財産になる。今までは、学校で申し込んでもらっていたが、今度は自分で申し込んで取り組むことに価値がある。3月末までには結果がわかる。合格できれば、大きな自信となる。

あるいは、シンプルで地味な取り組みではあるが、1冊の本を読んでみるのはどうだろうか。まずは本屋さんに行ってみる。書籍が並んでいるコーナーをゆっくりじっくり本の題名、タイトルを確かめながら眺めるのである。すると、興味がわくタイトルの本があるかもしれない。それを読んでみるのである。できれば、1000円未満の本がよい。万が一、読んでみたが得るものがなかった場合に、1000円を超すとダメージ感が残る。ただし、途中で読むのをやめてしまった本だとしても必ず取っておいたほうがよい。もう少し後になって読めるようになるかもしれない。読むタミグが少し早かっただけなのかもしれない。また、りっぱな単行本は魅力的に見えるものだが、大抵は1000円を超すので、一度考えた方がよい。1冊丸々を立ち読みするのは抵抗があるだろうから、冒頭の「はじめに」や「まえがき」などを読んでみるとよい。そこには筆者の思いが入っている。読むかどうかの判断材料にできる。

漢検も本を読むことも、やらなくても済むことである。誰かに指図されることでもない。だが、やらなくてもいいことを敢えてやることに意味がある。今までは学校という場で生活してきた。そこでは、多くは決められた指示されたことをやってきたはずである。社会に出るこれからは違う。自分でやるのである。自分のためにやるのである。

3学期は短いが、取り組み方次第ではかなり充実した期間となる。仮にうまくいかなかったとしても4月になるとリセットされるから心配はいらない。大事なことはやってみることである。一歩前に踏み出してみることである。